
ボカUTA学園

蒼空音P

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボカUTA学園

【Nコード】

N3018BA

【作者名】

蒼空音P

【あらすじ】

電子世界――

その世界には、現実世界で生きる人となんらかわりなく生活するVOCALOID・UTAという「ヒト」たちがいた。

主人公、『蒼空音ヒロム』はとあるきっかけで電子世界に来てしまい、さらに記憶の大半を失ってしまう。

そんなヒロムを助けたのは、なんとVOCALOIDである初音ミ

クたちだった。

ヒロムはミクたちの提案により、自分の記憶が戻るまでの間、VO
CALOIDとUTAUたちが通う学校

『ボカUTA学園』の生徒になることになる。

現実世界の『人間』と、電子世界の『ヒト』が織り成す、

騒がしいけどほのぼのので、

ちょっぴりしんみりだけど、

やっぱり楽しい学園ストーリー！！

この小説の内容はフォレストページのボカUTA学園とほぼ同じ
です

プロローグ／孤独の少年（前書き）

はじめに

この小説は、フォレストページの夢小説『ボカU.T.A学園』から夢小説としての要素だけを抜き、修正・加筆をしたものです
話の内容はほとんど変わりません
なにか不満を感じるような場合は、すぐにブラウザを閉じることをおすすめします

ブローグ／孤独の少年

カチツ

くく
♪

明るい音楽が流れた。

「・・・へえ、なかなかいい曲じゃんか・・・マイリスつと」うす暗い部屋の中にあるパソコンの光、その前に椅子をこしかけパソコンを眺める少年がいた。

「・・・なんかあきたな。どっかのチャットでもいくか」

カチツ、

カチカチ

「なにになに・・・？」

『友と喧嘩した、あいつうぜえ、まじ死ねえw』・・・つか・・・

」

「友・・・か・・・」

「こいつは、まだ喧嘩する相手いるだけいいよな・・・」

少年は、独り言をはじめた。

「俺なんか、そんな相手すらいもないもんな・・・」

いつも学校では『独り』・・・。

家帰ってもこうやってパソコンとか・・・ケータイいじるだけだ

し――」

「友達……欲しいな……けど……俺になんか……な」

数分後、少年はチャットを終えて自分のパソコンの画像フォルダを開いていた。

別に意味があつてやったことではなく、自分の気をまぎらわすために見ただけのようなのだ。

そこには、初音ミクや鏡音リンなどのVOCALOID、重音テトや健音ティなどのUTA、亜北ネルや弱音ハクなどのさまざまな画像があつた。

少年は、そんな画像を見ながら一人寂しそうにつぶやいた。

「――俺は、毎日毎日……何をやってるんだろう……」

（……二。ニコ動画）

パソコンの画面で動画が自動的に再生する準備が始まった。

「……俺、こんなの開いたっけ？」

まあ、いつか。どうせ暇だし」

動画の投稿者の名前は『ボカutap』という聞いたことがなかった。

しかも、その動画の再生数は0回。

少年は、再生数が0回はおかしいと感じたが、きっと何かのバグが起きているのだろーと思いきやそれ以上考えるのを止めた。

そして、動画の再生が始まった。

♪
♪
♪
♪

その動画は、聴いたことのない初音ミクの曲でかなり、いや、ほとんど人間の声のようですばらしく美しかった。

「おいおい・・・これ、完全に神動画だろ！」

少年は思わず興奮し大声を出す。

そして動画の中のミクが、少年に手を差し出す。

「・・・・・・・・」

少年は、なんとなくパソコンの画面の中にあるミクの手に、自分の手を合わせるように触れた。

——そのときだった——

「・・・えッ!？」

なんと、少年の手がパソコンの中に入っていくのである。手を抜こうとするが全然抜けない。逆にどんどん入っていつてしまう。

「う、嘘だろ!？ぬ、抜けない!!なんだよこれえ!!!!」

「ッ!!!!うわああああああ!!!!!!」

数秒後、そこに少年の姿はなかった。

ブログ／孤独の少年（後書き）

テト「はじめまして、作者そらの嫁・・・じゃなくて相棒の重音テトだおー」

ども、ボカロヲタのそらのおとPです

あ、ついでにですがここの重音テトは本編とは別人ですのでテトファンの皆さんはご安心を！

テト「ついにこっちでも始まったね

やっぱり、フォレスト版の違うストーリーになったりするの？」

いんや、ちょこつと変えたりはするけど、内容は変わらないよ

フォレストでも完結してないから、こっちを別のストーリーにする
とめんどいし

テト「ふーん・・・てなわけで次回に続く！」

え！？いきなり終わり！！？

ワケわかんない！

「・・・・・・・・・・・・・・・・え・・・・・・・・ねえ・・・・・・・・もしもし？」

「・・・・・・・・俺、誰かに呼ばれてる？
ん？・・・・・・・・なんか・・・・・・・・この声聞いたことあるよーな、ないよーな・・・・・・・・」

「ダメだこりやwぜんっぜん起きないよ」

「でも、いきなり空から落ちてきて運悪く下にあつた石に頭クリテイカルヒットしたんだし、気絶しても無理も無いよ・・・・・・・・起きるまで待とうよ」

違う声が二つ・・・・・・・・これも聞いたことあるような・・・・・・・・
つか、空から落ちたって・・・・・・・・俺か？

いやいやいや、まさかそんなマンガみたいなことあるわけないよな
あ・・・・・・・・

でも頭いたいのは事実だし・・・・・・・・

「私思っただけど、軽く衝撃与えれば起きるんじゃないかな？」

「よし！なら久しぶりにロードローラー使つとするかー!!」

「おお！リンちゃん、やけに張り切ってるねw
だけどダメだよ！

ここは私のネギを鼻にぶつさs「リンのロードローラーも、ミク姉
の鼻ネギもいろいろとヤバイからダメ」

待て待て待て待てえええ！！！！

（。D ; ; ;）

ロードローラーなんかやったら多分死ぬよ！！？

鼻にネギなんか指しても絶対俺の命危ないから！！！！

・・・・・・・・ちよつとまで。リンにミクだつて？

おいおい・・・・まさか、VOCALOIDじゃないよな？

あり得ないあり得ない・・・・絶対にあり得ない！！

・・・・だけど、さっきパソコンの中に入っちゃったよな俺・・・・

うん、もうワケわかんない。

ならどうするか・・・・

決まってるだろ!!この目で確かめるしかないだろ!!

ワケわかんない！（後書き）

テト「今回は全部会話だったね」

うん

言つとくが、別に手抜きしたわけじゃないぞ？

テト「なるほど。ただ単に駄文なだけか」

うつ！『グサツ』↑（心に矢が刺さった音）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3018ba/>

ボカUTA学園

2012年1月8日00時49分発行